

ID	受理日	番号	製造会社	製品名	原料名	原料名	製造国	有効成分	文	症	修正 使用 位置	感染症 (PI)	出典	概要
192	2009/10/14	90600	あすか製薬	日局ヒト下垂体性 性腺刺激ホルモン	下垂体性 性腺刺激 ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
193	2009/10/16	90601	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止に より記載なし	製造 工程	無	無	無			
194	2009/10/16	90602	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	ウシ胎児 血清	ウシ胎児の 血清	製造中止に より記載なし	製造 工程	無	無	無			
195	2009/10/16	90603	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	DNase I	ウシの膵臓	製造中止に より記載なし	製造 工程	無	無	無			
196	2009/10/16	90604	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	RNase A	ウシの膵臓	製造中止に より記載なし	製造 工程	無	無	無			
197	2009/10/16	90605	デンカ生研	乾燥組織培養不 活化A型肝炎ワク チン	トリブシン	ブタの膵臓	製造中止に より記載なし	製造 工程	有	無	無	インフル エン ザ	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 21)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 28)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 April 30)	2009年3月から4月上旬にかけてメキシコで呼吸器疾患のアウト ブレイクが発生した。3月1日から4月30日までに合計1918例 の重症呼吸器疾患症例が報告され、うち286例がインフルエン ザA陽性、97例がRT-PCRにより新型インフルエンザA/H1N1と 確定された。死亡例は合計84例が報告された。このインフル エンザウイルスはカリフォルニアの小児患者2例から同定された ウイルスと同一の株であることが判明した。
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; 453-458 (2009 May 8)	90572に同じ
												新型インフル エンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58 (Dispatch); 1-3 (2009 May 12)	90572に同じ

ID	採得日	番号	採得機関	一般名	生産細胞	原料製法	製造国	製造工程	有	無	無	遺伝子検査	検出症(PT)	出典	概要
198	2009/10/16	90606	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無		結核	日本感染症学会第83回総会 83(S)283 P-039	バングラデッシュ首都ダッカ市内動物園で死亡したアカゲザルの肺結核変部から分離されたMTC(結核菌群)菌株よりゲノムDNAを抽出し、遺伝子解析を行った。その結果、分離株はMTCの進化系統樹上のOlyx bacillusに位置する可能性が高く、種としての登録がなされていないことから新種の可能性が示唆された。また、この菌がオリックスとサルという遺伝的に離れた位置にある哺乳類から検出されたことから宿主域の広い菌である可能性が考えられた。
													マラリア	日本寄生虫学会第78回 83(S)283 BPA-12	ヒトにのみ感染すると考えられていた四日熱マラリア原虫の自然宿主として類人猿を同定した初めての報告である。輸入チンパンジー60個体に対しPCR検査を行った結果、2個体からマラリア原虫を検出し、系統学的解析より四日熱マラリア原虫と同定した。ヒトマラリア原虫の宿主特異性についての再考と、マラリア対策におけるヒト以外の霊長類への注意について指摘している。
199	2009/10/16	90607	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	無	無	無				
200	2009/10/16	90608	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無				
201	2009/10/16	90609	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無				

ID	受理日	番号	開発者名	商品名	成分	原料	製造国	製造 区分	動物 用	植物 用	薬 品 種 別	特許 の有無(特許)	出典	概要	
202	2009/10/16	90610	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血清	米国	製造 工程	無	無	無				
203	2009/10/16	90611	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチ ン 乾燥弱毒生おたふくかぜ ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチ ン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふ くかぜ風しん混合ワクチ ン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん 混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎 ワクチン	エリスロマ イシンラク トビオン酸 塩	ウシの乳	オランダ、米 国、カナダ、 ニュージ ーランド	製造 工程	無	無	無				
204	2009/10/16	90612	阪大微生物 病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチ ン 沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造 工程	無	無	無				
205	2009/10/16	90613	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生風しん ワクチン 乾燥日本脳炎ワク チン 乾燥弱毒生おたふ くかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん ワクチン 乾燥弱毒生麻しん おたふくかぜ風し ん混合ワクチン 日本脳炎ワクチン 水痘抗原	コレステ ロール	ヒツジの毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造 工程	無	無	無				

ID	登録日	登録番号	製作者	成分	原料	製造国	製造工程	有	無	無	成分名(PFI)	出典	概要	
206	2009/10/16	90614	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	トリブシン	ブタの臓腑	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Archives of Virology 2009; 154: 887-890	中国中心部で2004-2006年の間、ブタインフルエンザのサーベイランスが行われ、2種のH3N8インフルエンザウイルスがブタから分離された。この2種の分離株について8ヶ所の遺伝子断片の塩基配列決定および系統発生解析を行った結果、この2つの分離株はウマ由来であり、1990年初頭に検出されたヨーロッパのウマH3N8と近縁であると判明した。HA (hemagglutinin)アミノ酸配列を比較した結果、いくつかの重大な置換が認められ、一つの置換はglycosylation siteの欠損をおこし、二つの置換はイヌH3 HAsに報告があった。HAタンパクに変異を持つウマH3N8インフルエンザウイルスの宿主範囲の拡大はヒト感染の可能性を示唆する。
207	2009/10/16	90615	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	該当なし(製造中止)	製造工程	無	無	無			
208	2009/10/16	90616	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	該当なし(製造中止)	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Archives of Virology 2009; 154: 887-890	90614に同じ

ID	登録日	番号	製作者	成分名	生物由来 の有無	原料地名	原産国	含有 成分	有害 成分	有害 成分	有害 成分	有害 成分	出典	概要
209	2009/10/16	90617	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージー ランド	製造 工程	無	無	無			
210	2009/10/16	90618	阪大微生物 病研究会	乾燥日本脳炎ワク チン 日本脳炎ワクチン	マウスの 脳	マウス	日本	製造 工程	無	無	無			
211	2009/10/16	90619	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化 液	ウシの筋肉	オーストラリ ア	製造 工程	無	無	無			
212	2009/10/16	90620	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生麻しん おたふくかぜ風し ん混合ワクチン	人血清アル ブミン	ヒトの血液	該当なし(製 造中止品 目)	添加 物	有	無	無	新型インフル エンザ (H1N1)	WHO 2009 August 28	WHOは2回目のパンデミックの到来に備えるよう、北半球の各 国に注意喚起している。H1N1パンデミックウイルスは世界のほ とんどの地域で最も主要なインフルエンザ種であり、パンデミッ クは今後も感染集団を介して続くであろう。ウイルスが強毒化す る変異の兆候はなく、臨床症状はすべての国で概ね一致しており、 ほとんどが軽度であるが、2回目のパンデミックでは更に多くの ヒトが罹患する可能性がある。パンデミックでは比較的若年 者が感染し、重症および死亡症例の大半が50歳以下の成人で あるが、季節性インフルエンザでは約90%が65歳以上である。 また、若者や健康者にも重度の呼吸器疾患を起こす事があり、 ICUでの治療が必要となる。妊娠中や呼吸器疾患、重いぜん 息、心臓血管障害、糖尿病および免疫不全などの疾患は重症 化および死亡のリスクを高くしており、また、少数民族や先住民 族は入院や死亡のリスクが4-5倍高いとの報告もある。

ID	申請日	番号	開発者名	製品名	生体材料	原材料	製造国	製造工程	添加物	添物	滅菌	凍正 使用 温度	感染症(PT)	出典	概要
213	2009/10/16	90621	阪大微生物 病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せき ワクチン 沈降精製百日せき ジフテリア破傷風 混合ワクチン 百日せきジフテリ ア破傷風混合ワク チン	脱繊維牛 血液	ウシの血液	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造 工程		無	無	無			
214	2009/10/16	90622	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチ ン 乾燥弱毒生おたふくかぜ ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチ ン 乾燥弱毒生麻しんおたふ くかぜ風しん混合ワクチ ン 乾燥弱毒生麻しん風しん 混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎 ワクチン	乳糖水和 物	ウシの乳	オランダ、ド イツ、オース トラリア、 ニュージー ランド	添加 物		無	無	無			
215	2009/10/16	90623	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生水痘ワ クチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺 二倍体細 胞	1966年に樹立し たマスタセルバ ンクに使用した ヒトの細胞株	製造 工程		無	無	無			
216	2009/10/16	90624	阪大微生物 病研究会	乾燥痘そうワクチ ン 痘そうワクチン	ウシの皮 膚	ウシの皮膚	該当なし(製 造中止品 目)	製造 工程		無	無	無			
217	2009/10/16	90625	中外製薬	トラスツズマブ(遺 伝仕組換え) トラスツズマブ(遺 伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	米国	製造 工程		無	無	無			
218	2009/10/16	90626	中外製薬	トラスツズマブ(遺 伝仕組換え) トラスツズマブ(遺 伝子組換え)	ブタラード ウォーター	ブタ脂肪	米国、カナ ダ	製造 工程		無	無	無			
219	2009/10/16	90627	中外製薬	トシリズマブ(遺伝 子組み換え)注	ガラクトー ス	ウシ乳	米国、 ニュージー ランド	製造 工程		無	無	無			
220	2009/10/16	90628	中外製薬	トラスツズマブ(遺 伝子組換え) ストレプトコックス ピオゲネス(A群3 型) Su株ペニシリ ン処理凍結乾燥粉 末	パンクレア チン	ブタ膵臓	米国、カナ ダ、日本、フ ランス	製造 工程		無	無	無			

ID	登録日	番号	製薬会社名	商品名	生物由来成分名	原料名	原産国	含有区分	有害成分	副作用	適正使用措置	感染症(PIT)	出典	概要
221	2009/10/16	90629	中外製薬	トラスツスマブ(遺伝子組換え)	プリマトン HS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、豚肉、ブタラード、ウオーター	ウシ: 米国、ウマ: 米国、カナダ、ブタ: 米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
222	2009/10/16	90630	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
223	2009/10/16	90631	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
224	2009/10/16	90632	中外製薬	トラスツスマブ(遺伝子組換え) レノグラステム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え) トシリスマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	マスタセルバンクは1990年以前に樹立されており、原産国不明	製造工程	無	無	無			
225	2009/10/16	90633	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	マスタセルバンクは1990年以前に樹立されており、原産国不明	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogenes 2009 May	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレナウイルスが分離された。発見された地名(Lusaka, Johannesburg)より、Lujo virusと命名された。
												新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
226	2009/10/16	90634	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
227	2009/10/19	90635	持田製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	-	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ

ID	発症日	患者ID	製薬会社	薬剤名	成分	投与部位	国	添加物	有	無	無	感染症(PID)	出典	概要
228	2009/10/19	90636	持田製薬	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程				細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498)と同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)	90505)と同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505)と同じ
												リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152	90505)と同じ
												ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171	90505)と同じ
												レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173	90479)と同じ
												細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174	90505)と同じ
												真菌感染	日本感染症学会第83回総会 P239 O-201	90505)と同じ
												ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505)と同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	2001年以降、フランスのレファレンス研究所はHIVの遺伝子多様性を調査しており、2004年に血清検査でHIV陽性であった62歳の女性の血清試料(RBF168)を分析した。この血清は女性がカメルーンからパリに移住した直後に採取された。女性は現在AIDSの症状はない。RBF168からウイルスを分離し、ウイルス遺伝子を解析した結果、RBF168はゴリラのサル免疫不全ウイルス(SIVgor)と最も近縁であった。この新しいウイルスは新しいHIV-1のプロトタイプであると思われるが、HIV-1のグループM,N,Oとは異なり、グループPと命名された。RBF168株が発見される前は、HIVグループOが最もSIVgorに近縁であったが、変異の大きさから現在のSIVgorから直接出現したのではなく、SIVgorのゴリラからヒトへの伝播が起因していると考えられた。これらの結果より、HIVの感染源としてチンパンジーに加えてゴリラが示された。

ID	受理日	番号	製薬会社名	一般名	生物由来成分	原料名	原産国	有効成分	有	無	無	修正 使用 特異	感染症(P1)	出典	概要
229	2009/10/19	90637	持田製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無		細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)	90505に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505に同じ
													リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152	90505に同じ
													ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
													レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
													細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174	90505に同じ
													真菌感染	日本感染症学会第83回総会 P239 O-201	90505に同じ
													ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
													HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	90636に同じ
230	2009/10/19	90638	持田製薬	インターフェロンベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	有	無	無		インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ
231	2009/10/19	90639	持田製薬	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓	該当なし(出荷なし)	製造工程	有	無	無		インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ

ID	登録日	登録番号	国	病原体	宿主	感染経路	発生国	有効成分	有	無	無	出典	概要
232	2009/10/20	90640	ILS	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国					インフルエンザ ProMED-mail 20090626.2322	2009年6月25日、アルゼンチン ブエノスアイレスにおいてA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが報告された。発生日は2009年6月15日であり、最初の確定日は6月24日、報告日およびOIEへの報告日は6月25日であった。飼育頭数ブタ5586頭、発生頭数はブタ1676頭、死亡例0頭であった。
												インフルエンザ ProMED-mail 20090701.2376	アルゼンチン政府はブエノスアイレス地方の養豚場で起こったインフルエンザA/H1N1のアウトブレイクを報告した。感染源は、2009年6月7-9日にインフルエンザ様症状を示した農場労働者であり、ヒトから動物に伝播した。感染したブタは2009年6月24日まで症状を呈したが、現在は回復している。総計5500頭を超えるブタにおいて30%が罹患し、死亡例はなかった。この報告は、「新興感染」として国内のブタにインフルエンザA/H1N1を検出し、OIEに報告したまだ2例目であり、1例目は2009年4月にカナダでブタに関連した報告であった。EUの調査グループが行った、ヒトからの新型変異インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染したブタに関する予備的検査では、naive pigsに経鼻的にウイルスを接種すると、感染の1-10日後(ピークは3-5日後)まで(口と目から)ウイルスが排泄された。経直腸的ウイルス排泄やウイルス血症は認められなかった。感染していないブタを感染ブタの中に入れて、接触によりウイルスに感染した。感染したブタはすべて、軽症ないし中程度の臨床症状と病理学的所見を示した。
												インフルエンザ OIE 2009 July 9	アルゼンチンにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年6月15日、最初の確定日 2009年6月24日、報告日 2009年7月8日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年6月29日にBUENOS AIRES Canuelas CanuelasでA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ6104頭、確定例はブタ1632頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。
												インフルエンザ 4. ProMED-mail 20090718.2557	2009年7月17日、アルゼンチン政府は少なくとも1つのブタ群で新型H1N1インフルエンザウイルスを検出したことに続き、全国的な動物衛生上の非常事態を宣言した。危機管理計画は早期検出を確実にするため、養豚場や処分施設での検査を増やす事を許可している。今月初め、州が運営するSENASAIは、ブエノスアイレス州の養豚場で労働者が動物にこの新種を持ち込んだ疑いがあると報告し、ブタがヒトから感染可能であるという理論の重要性が高まった。また、その後検査された別の養豚場もウイルス陽性であったと報告した。

ID	受理日	発号	報告者名	品名	生産国	原料地名	原産地	数量	検査	検査	検査	真正 政府 検査	感染症(P.T)	出典	概要
													インフルエンザ	PHAC News Release 2009 July 7	2009年7月7日、カナダ政府はSaskatchewan州で新型インフルエンザ種を検出したと報告した。同州にある養豚場の2人の労働者から検出され、3例目は調査中である。PHAC(Public Health Agency of Canada)の国立微生物研究所は、この新しい種がヒト季節性インフルエンザおよびブタインフルエンザ由来遺伝子から構成されていることを確認したが、現在流行しているパンデミックH1N1インフルエンザの新型とは異なる。Health Ministerは、予備的な結果からは公衆衛生へのリスクは低く、通常の季節性インフルエンザワクチンを接種した国民はこの新しいインフルエンザ種にいくらか免疫があると述べた。また、カナダ当局は、WHOにこの新しいインフルエンザウイルスの検出について通知し、カナダ政府は引き続き警戒し、国民に進捗について情報提供を続ける、と報告した。
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR update6 2009年4月30日	2009年4月30日現在、11の国がインフルエンザA(H1N1)に感染した257の症例を公式に報告した。
													新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090723.2603	カナダCFIAの検査員2名が、2009年4月下旬にAlbertaのブタにおけるインフルエンザアウトブレイクについて調査中にブタインフルエンザA/H1N1に感染したことが発覚した。カナダにおける最初の新型インフルエンザ感染例である。
													インフルエンザ	ProMED-mail 20090828.3027	カナダ・マニトバ州内のブタ群で新型パンデミックH1N1インフルエンザウイルスが検出された。最初に雌ブタ群で、次いで離乳ブタおよび肥育ブタの家畜小屋で新型H1N1の確定診断がなされた。ウイルスは、感染したメスブタから生まれた子ブタに感染し、子ブタ群および肥育ブタ群に広がった。このウイルスの感染を検出した群における症状はとて軽く、死亡例はなかった。最近の方針声明では、新型H1N1と診断された農場に検疫およびブタ処理を要求することはない。この新型ウイルスは、ブタ群で一般的に検出される他のインフルエンザと異なる挙動は示しておらず、動物がヒトへのウイルス感染に顕著な役割を果たしている証拠はない。

ID	発症日	発症地	報告者名	一人名	発症年齢	性別	職業	国籍	文種	症種	重症 傾向 推定	感染症 (PT)	出典	概要
												インフルエンザ	ProMED-mail 20090826.2999	2009年8月25日、オーストラリアのQueenslandにある養豚場は、ブタがインフルエンザAに陽性を示し、ブタインフルエンザのアウトブレイクの可能性があるため封鎖され、インフルエンザA(H1N1)の確定検査を実施中である。450頭のうち多くのブタがインフルエンザ様症状を呈しているとの報告後、鼻綿および血液試料は採取された。養豚場は検疫下におかれ、厳重なバイオセキュリティの措置が実施されている。
												インフルエンザ	ProMED-mail 20090820.2951	2009年8月19日、2ヶ所目となるオーストラリアの養豚場がブタインフルエンザウイルス検出により検疫下におかれた。政府当局は、ウイルスが変異し、強毒株となってヒトに伝播するとの心配があるため、ビクトリア州に養豚場の封鎖を命じた。ブタのインフルエンザ感染は、ヒトへの健康に影響を及ぼす問題ではなく、国内外の専門家は、ブタ肉および豚肉製品を食べても安全であると強調している。また、ブタはインフルエンザに罹患した施設の労働者からウイルス感染があったと考えられていると、メディアは報じた。
												インフルエンザ	ProMED-mail 20090808.2812	2009年7月末、カンザス州ライリー郡在住の子供が一般的にはヒトに感染しないブタインフルエンザH3N2ウイルスに感染した。この子供はブタとの直接の接触があった。H3N2ウイルスは北アメリカのブタ間で一般的に流布しており、4月中旬に米国で初めて検出されたブタ由来pandemic H1N1ウイルスとは異なる。KDHEの保健部長は、H3N2ウイルスはpandemic H1N1ウイルスとは関係していない事、およびpandemic H1N1ウイルスの変異や組換えによるウイルスではなく、現時点では、ヒトの健康に脅威を及ぼしてはいないと報告した。子供はインフルエンザ様症状を呈したが、完全に回復し、家族からの病気の報告はなかった。
												インフルエンザ	CDC FluView 2008-2009 Influenza Season Week 34 ending August 29, 2009	米国CDCはweek 34(2009年8月23-29日)における国内インフルエンザ活動は増えている事を報告した。2009年4月中旬から8月30日までにCDCに報告のあった2009インフルエンザA(H1N1)ウイルスと関連した入院数総計9,079例および死亡例593例は、前の週のそれぞれ8,843例および556例から増加した。Week34の期間では、検査されCDCのインフルエンザ部門に報告された1,109例(17.3%)がインフルエンザ陽性であった。また、CDCに報告されたインフルエンザAのすべてのサブタイプのうち、97%が2009インフルエンザA(H1N1)であり、新しいインフルエンザAウイルス感染1例が報告された。更に、1例のインフルエンザに関連した小児の死亡が報告され、2009インフルエンザA(H1N1)ウイルス感染と関連していた。
												インフルエンザ	CDC FluView Week8 ending 2009 February 29	2009年2月22-28日における米国内インフルエンザの推移状況。インフルエンザA(H1,H3, unsubtype)およびBの感染状況などの報告が述べられており、新規インフルエンザA(H1N1)ウイルスのヒトへの感染例は1例であり、病気のブタとの接触があった。

品名	製造年月	承認番号	製薬会社	有効成分	作用機序	原料	製造国	有効成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	概要
														インフルエンザ CDC FluView 2008-2009 Influenza Season Week 34 ending August 29, 2009 90640に同じ
														インフルエンザ N Engl J Med 2009; 360; 2616- 25 90588に同じ
														新型インフル エンザ (H1N1) N Engl J Med 2009; 360; 2605- 2615 90473に同じ
														新型インフル エンザ (H1N1) WHO/EPR 2009 April 24 90589に同じ
233	2009/10/21	90641	沢井製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
234	2009/10/22	90642	CSLベーリング	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無			異型クロイツフェルト・ヤコブ病 Vox Sanguinis 2009; 96; 270 90527に同じ
														新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ
														クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ
235	2009/10/22	90643	CSLベーリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無			新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ
														クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ
236	2009/10/22	90644	CSLベーリング	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国	製造工程	無	有	無			
237	2009/10/22	90645	CSLベーリング	フィブリノゲン加第XIII因子人血液凝固第XIII因子	人血液凝固第XIII因子	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無			異型クロイツフェルト・ヤコブ病 Vox Sanguinis 2009; 96; 270 90527に同じ
														新型インフル エンザ (H1N1) FDA/CBER 2009 April 30 90523に同じ
														クロイツフェルト・ヤコブ病 Transfusion 49(5); 977-984 90532に同じ

ID	登録日	登録号	製造者名	成分名	抽出原料	抽出部位	原産国	含有成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	有害成分	出典	概要
238	2009/10/22	90646	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 February 17	90498に同じ
													B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	90523に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
239	2009/10/22	90647	武田薬品工業	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無	無			
240	2009/10/23	90648	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2009 June 11	90589に同じ
													HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
241	2009/10/23	90649	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無	無			
242	2009/10/23	90650	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	バクトロプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ	製造工程	無	無	無	無			
243	2009/10/23	90651	塩野義製薬	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無	無			
244	2009/10/23	90652	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	無	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ

品名	申請日	承認番号	申請内容	成分	製剤	製造国	有効成分	無効成分	無効成分	無効成分	出典	概要	
											細菌感染 日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1) CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1) 厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ	
245	2009/10/23	90653	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子	人血液凝固第XIII因子	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無	マラリア CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
											細菌感染 日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1) CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ	
											新型インフルエンザ (H1N1) 厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ	
246	2009/10/23	90654	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子乾燥濃縮人活性化プロテインC トロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	有効成分 製造工程	有	無	無	マラリア CDC/MMWR 2009; 58; 229-232	90498に同じ
											細菌感染 日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ	

ID	受理日	番号	報告者名	一報名	生物由来	原料種	原産国	有効成分	有	無	無	修正情報	感染症(H1N1)	出典	概要
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009: 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ
247	2009/10/23	90655	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第XIII因子 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	有効成分添加物	有	無	無		マラリア	CDC/MMWR 2009: 58: 229-232	90498に同じ
													細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009: 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
		90655											新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ

ID	登録日	承認番号	製造元	商品名	原料	製造国	製造工程	有	無	無	感染症 (PT)	出典	概要	
248	2009/10/23	90656	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
249	2009/10/23	90657	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスマ抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
250	2009/10/23	90658	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
251	2009/10/23	90659	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスマ抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
252	2009/10/23	90660	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ臓臓	カナダ、イタリア、米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
253	2009/10/23	90661	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アボセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58: (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省 新型インフルエンザに関する報道発表資料 2009 May 16	90498に同じ

ID	登録日	登録番号	製剤名	原料名	製造会社	製造国	製造工程	無菌	無菌	無菌	無菌	出典	概要
254	2009/10/23	90662	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ臍臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無		
255	2009/10/23	90663	化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥ポツリヌスウイルス毒素 ウロキナーゼ	リボヌクレアーゼA	ウシ臍臓	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無		
256	2009/10/23	90664	わかもと製薬	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無		
												結核	N Engl J Med 2009; 360: 2393-2395 2009年3月24日(世界結核デー)に公表されたWHOの第13回結核年次報告書によると、2006年と比べて2007年では結核感染者総数は減少しており、人口当りの感染者数も減少しているが、22カ国が世界の80%の結核感染を占め、2007年には多剤耐性(MDR)の結核例は500,000例報告されており、2008年末までに55カ国から広範囲薬剤耐性(XDR)結核例の報告があった。感染者の多い地域では、MDRの割合は1-14%であり、そのうちXDRの割合は21%程度である。結核は貧困地域での疾病であるが、財政難や失策により保健システムが機能していないために対処できない地域もある。DOTS(directly observed problem)が実施されず、単剤投与やノンコンプライアンスが見過ごされると、イソニアジド耐性菌が現れ、次いでリファンピシン耐性菌が増加する。MDR結核菌は他の薬剤にも急速に耐性を獲得し、阻止できない。また、個別治療は複数剤投与を最適化し、更なる耐性獲得を制限できるが、検査や診断する資力が限られているため、画一的な方法を余儀なくされ、更にMDR結核菌に不適切な投与を行う事となる。
												新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20090723.2391 2009年7月2日現在、日本でタミフル耐性を示す新型H1N1インフルエンザの遺伝子的変異株を初めて確認した。厚生労働省は患者のタミフル感受性は検査済みであると報告した。この患者は、2009年5月に新型インフルエンザ感染の確認がなされ、回復しており、年齢および性別は不明である。なお、世界で最初にタミフル耐性が認められたのは、デンマークであった。
												髄膜炎菌性髄膜炎	ProMED-mail 20090723.2426 2009年7月3日、インドMeghalayaでは2008年以降総計257人がmeningococcal meningitis(髄膜炎菌性髄膜炎)の疑いで死亡したと、州当局は発表した。2008年には130人(うち確定10例)が死亡し、2009年にはこれまでに127人(うち確定4例)が死亡している。政府当局は、これまでに2000例以上の報告が州からなされているが、状況は統制下において防衛策は実施していると述べ、約1億のワクチンをWHOから調達しており、感染のあった3つの地域で無料のワクチン接種を計画している。また、大規模な啓蒙活動に着手しており、予防薬は無料で配られている。

ID	発症日	発症者	製造者	剤名	成分	剤名	国名	添加物	有	有	無	感染症 (PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090722.2599	WHOに報告のあった各国のインフルエンザパンデミック (H1N1)2009の感染者数の更新情報である。2009年5月1日-7月6日にWHOに報告のあった累積症例数(および死亡例があった場合は死亡数)および2009年7月21日現在、ECDC(European Centre for Disease Prevention and Control)によってまとめられた累積症例数を国別に示した集計表が発表され、日本における2009年7月21日現在の累積数は4275症例であり、死亡例はなかった。
												ペスト	WHO 2009 August 11	2009年8月1日、中国当局はQinghai州の辺境の町Ziketanにおける肺ペストのアウトブレイクを報告した。1例目は32歳牛飼いの男性で7月26日に発熱と吐血を発症し、病院搬送中に亡くなり、翌日葬られた。7月30日、接触のあった関係者11人が発熱および咳で入院し、8月1日には、1例目を含めた12例全員がペスト菌陽性であった。翌日、初発症例の64歳の義父と37歳近隣男性も死亡した。残り9例中、1例は重症、もう1例は発熱および咳の急性症状を呈し、7例は、安定している。8月6日、地方の保険局は接触のあった332人を医療観察のため隔離し、交通規制を実施した。疫学調査から、このアウトブレイクの感染源は野生マーマットであり、初発症例の飼い犬と接触があった。この地方では野生の肺ペストが動物間に流行しており、耐性菌は存在しないことから、この3死亡例は対処の遅れによる。
257	2009/10/23	90665	わかもと製薬	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	デング熱	ProMED-mail 20090608.2121	2009年の1月から5月22日までの、ブラジルバイーア州における古典的デング熱症例数は82402例に達し、2008年同時期(28432例)と比べて220%増加している。確定死亡例は55例であった。
												ペスト	ProMED-mail 20090612.2177	2009年6月11日、People's Daily(人民日報)はモンゴルのBayan-Olgii州在住の14歳の子供が2009年5月29日にマーマットを食べた後、ペストに罹患したと報じた。症状は2009年6月2日に現れた。
												デング熱	ProMED-mail 20090614.2211	2009年6月14日、デング熱のアウトブレイクがタイのMae Hong Son地域で懸念されており、2008年より更に深刻であると予測された。同地域公衆衛生局の専門医は、デング熱が地域医療機関にとって2008年よりも更に大きな問題となる事を示す情報を発表した。2009年の今日までに約155例のデング熱症例が報告されたが、2008年と比較すると、既に2倍増加している。アウトブレイクを防ぐために、蚊よけの使用や蚊帳での就寝および花瓶の水は毎週取り替える事などを提言した。

ID	受理日	番号	報告者名	一 般 名	生 物 種 名	原 材 料 名	原 産 国	含 菌 区 分	文 種	品 種	適 正 使 用 指 導	感 染 症 (PT)	出 典	概 要
												マラリア	ProMED-mail 20090621.2278	<p>インドネシアのKalimantanで検出されたPlasmodium knowlesi (二日熱マラリア)の初症例である。22試料はKalimantan在住の重症だが合併症のないマラリア患者(4例)から採取され、すべての試料はP.falciparumもしくはp.vivaxとの合併マラリア感染と診断された。これらはドイツの研究所に運ばれ、4つのヒト病原種およびP.knowlesiについてrRNA遺伝子のスモールサブユニットを増幅する分子生物学的方法により同定を行った。その結果、4例は、P.vivaxとの混合マラリアであったが、P.knowlesiに陽性を示した。自然宿主の分布と東南アジアでの症例から、インドネシアの他の地域や島でも検出される可能性がある。サルマリアのヒトへの自然感染はまれであると考えられていたが、P.knowlesiのヒト感染はアジアにおいて予測されているよりも多いと思われる。2002年にマレーシアで、非典型症状のP.malariaeが増加したが、nested PCRの結果これらのマラリア症例の50%以上がP.knowlesiであった。また、2001-2006年の後ろ向き調査の結果、マレーシアボルネオのSarawakでは、患者試料の28%でP.knowlesiが確認され、P.malariae感染によるとされた異常死亡4例からP.knowlesiが検出された。</p>
												デング熱	ProMED-mail 20090706.2425	<p>2009年7月1日、カンボジアの保健省はデング熱が小児にとって深刻な問題となっており、症例の多くが小児である事を発表した。2009年にはこれまでにデング熱に感染した3333人の小児が治療を受け、10例が死亡している。2008年には感染した小児は1811例および死亡例は23例に留まっており、罹患数は著しく増加している。</p>
												デング熱	ProMED-mail 20090706.2425	<p>マレーシアではデング熱に立ち向かい、制御する活動への地域の参加レベルは低く、2009年6月21-27日における2009年ベクターコントロール活動も全部を実施できなかった。2009年7月3日、保健局は、この同時期におけるデング熱症例は749例、死亡は2例であり、デング症例が著しく増加した5つの州を公表した。また、2009年のデング熱症例総数24,534例および死亡総数62例であり、2008年の同時期にはそれぞれ20,721および45であった。</p>
		90665										チクングニヤウイルス感染	CDC 2009 August 17	90550に同じ

ID	発症日	報告日	報告機関	ワクチン名	成分	接種部位	製造国	有効成分	有	無	無	追加接種回数	感染症(PID)	出典	概要
		90665											チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail 20090730.2666	インドのKeralaの5地域、特に北部において、モンスーンの季節の間に、数十万のヒトが主に蚊に刺されることで発症するウイルス熱に感染しており、この地域でこれまでに10人が死亡した。衛生報告によると、この5地域で15万人以上のヒトが数日で感染しており、インド政府は病気の広がりを検証するために必要なすべての手順をとっている。デング熱、チクングニヤおよび肝炎の症例も多数報告されている。地域によって症状は異なるが、蚊が媒介する伝染病もしくは激しい体の痛みを伴うウイルス熱によるとしている。Malappuramの地区管理医師はモンスーンの後、発熱患者は特に6月および7月に急増しており、先月と比べると100倍の報告があった。これは通常のウイルス熱ではなく、激しい痛みと発疹を伴う膨張を呈しており、これらの領域で広がっているチクングニヤもしくはその類似ウイルス疾患によると述べた。
		90665											デング熱	ProMED-mail 20090803.2723	ベトナム保健省予防医学管理局はデング熱を防ぐために蚊の幼虫を殺傷する目的で、州の保健局と予防医学センターに少なくとも1年に2回薬品を散布するよう依頼した。衛生疫学研究所は、蚊の幼虫の発生を防ぐために湖や池に薬品を散布する試験的な計画を立てている。また、同研究所は、節足動物に感染している細菌であるWolbachiaを使用する研究を行っており、Wolbachiaは蚊の寿命を縮める。当局は、この細菌を放出するための蚊が生息している地域を選定している。当局によると、2009年7月19日現在、国内で36,046例のデング熱感染が報告されており、主に南部で2008年の同時期より11.7%増加している。
													デング熱	ProMED-mail 20090810.2840	2009年8月9日、インドBiharのMunger地区で脳マラリアにより6例(子供を含む)が死亡し、1000人以上がこの病気で苦しんでいると、地域保健局は発表した。この感染が初めて報告された2週間前以降、死亡がMungerのHaveli Kharagpurで起きた。Haveli Kharagpurでは80の村が脳マラリア症例を報告している。
													デング熱	ProMED-mail 20090817.2908	2009年8月13日、スリランカ厚生省の疫学局はデング熱症例数は22,757に増加しており、これまでに232例が死亡したと発表した。最新の統計によると22,757例のうち最も患者数の多かった6月では7050例であり、続いて7月までに6714例が報告された。2008年には4156感染例および85死亡例のみであり、著しい増加を示していることから、当局は、蚊が媒介する感染を撲滅するために国民意識を高めるキャンペーンを実施している。
258	2009/10/26	90666	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
													B型肝炎	日本肝臓学会第 37回東部会 O- 85	90550に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料地名	製造国	有効成分	有	無	無	真正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
													HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	90550に同じ
													BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm.)	90550に同じ
													BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbrn.htm.)	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	90550に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
259	2009/10/26	90667	日本赤十字社	pH4 処理酸性人免疫グロブリン	pH4 処理酸性人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無		A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
													B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	90550に同じ
													B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49; 1314-1320	90666に同じ
													感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 245	90550に同じ

ID	受理日	番号	製薬会社	品名	成分	剤形	国産	有効成分	有	無	真正性	感染症(51)	出典	概要
260	2009/10/26	90668	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
												B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	90550に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49; 1314-1320	90666に同じ
												感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 245	90550に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Disease 2009; 15; 704-708	90550に同じ
												E型肝炎	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55; 244	90550に同じ
												HIV	Pediatrics 2009; 124; 658-666	90550に同じ
												HIV	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24; 314	90550に同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4; e1000455	90527に同じ
												インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140; 85-90	90550に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	N Engl J Med 2009; 360; 2605-2615	90473に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14; 19244	90550に同じ

ID	受理日	受理	報告者名	施設名	生物由来 物質名	原料名	原産国	品名	用途	用途 分類	感染症(PT)	出典	概要
											新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
											新型インフルエンザ(H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14: 19244	90550に同じ
											ウイルス感染	日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
											ウイルス感染	ProMED-mail 20090806.2782	90666に同じ
											ウエストナイルウイルス	CDC (http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	90550に同じ
											クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 January 5	90550に同じ
											チクングニヤウイルス感	CDC 2009 August 17	90550に同じ
											パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
											HTLV	47 news. 2009 Jun 27	90550に同じ
											HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	90550に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	90550に同じ
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90527に同じ

ID	受理日	番号	製薬会社名	成分名	性状/剤形	原料/抽出	製造国	有効成分	有	無	無	製造/抽出	出典	概要
263	2009/10/27	90671	日本製薬	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	凍結乾燥注射剤(溶解液付)	人血液	米国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
264	2009/10/27	90672	日本製薬	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	凍結乾燥注射剤(溶解液付)	人血液	米国	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
265	2009/10/27	90673	バイエル薬品	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え) イットリウム(⁹⁰ Y)イブリツモマブチウキセタン インジウム(¹¹¹ In)イブリツモマブチウキセタン	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	インフルエンザ	CFIA 2009 April 26	90454に同じ
												ウイルス感染	Virilogy blog 2009 May 29	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレナウイルスが分離された。発見された地名(Lusaka, Johannesburg)より、Lujo virusと命名された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97; 226-233	異常プリオン蛋白(PrPsc)に特異的に結合するリガンドを用いた新しいクロマトグラフィ法が開発された。vCJD(variant Creutzfeldt-Jakob)伝播リスクの観点から安全性を向上させるために、SD (solvent/detergent)処理された血漿分画製剤 OctaplasLGの製造過程に本法を導入し、PrPsc除去効果を調べた。Octaplas製造の途中および最終製品にPrPscが含まれた脳ホモジネートをスパイクし、リガンドゲル1mL当りのbinding capacity (結合能)およびヒト由来PrPscに対するリガンドゲルの特異性を調べた。PrPscの検出および定量にバリデートされたWestern blot法が用いられた。その結果、reduction factor(RF)は $\geq 3.0 \log 10$ であり、ゲルのPrPsc結合能は $\geq 6 \log 10$ ID50/mlと非常に高かった。また、ゲルは動物(ハムスターとマウス)およびヒト(sporadicおよびvariant CJD)由来であるPrPscに特異的に結合する。この新しいPrPsc除去ゲルはOctaplasLGからvCJDの病原因子を除去できる非常に高い性能を示した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	90636に同じ
266	2009/10/27	90674	バイエル薬品	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	CFIA 2009 April 26	90454に同じ
												ウイルス感染	Virilogy blog 2009 May 29	90673に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97: 226-233	90673に同じ
												新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20090630.2359	90673に同じ
												新型インフルエンザ(H1N1)	WHO 2009 June 11	90589に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA CPMP 2009 July 23	90673に同じ
												パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	90636に同じ

ID	発出日	発出番号	製薬会社	製品名	成分	剤形	製造国	製造工程	有	無	無	感染症(OT)	出典	概要
267	2009/10/27	90675	バイエル薬品	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	CFIA 2009 April 26	90454に同じ
												ウイルス感染	Virilogy blog 2009 May 29	90673に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97; 226-233	90673に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090630.2359	90673に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2009 June 11	90589に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA CPMP 2009 July 23	90673に同じ
												バルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
												HIV	Nature Medicine 2009; 15; 871-872	90636に同じ
268	2009/10/27	90676	バイエル薬品	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	CFIA 2009 April 26	90454に同じ
												ウイルス感染	Virilogy blog 2009 May 29	90673に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97; 226-233	90673に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	ProMED-mail 20090630.2359	90673に同じ

ID	発注日	番号	製薬会社名	成分	抽出液	原料	生産国	製造工程	有	無	無	無	感染症 (P1)	出典	概要
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2009 June 11	90589に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA CPMP 2009 July 23	90673に同じ
													パルボウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 July	90523に同じ
													HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	90636に同じ
269	2009/10/27	90677	バイエル薬品	イントリウム(⁹⁰ Y)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調製用 インジウム(¹¹¹ In)イブリツモマブチウキセタン(遺伝子組換え)注射液調製用	ウシ乳加水分解物	ウシ乳	オーストラリア又はニュージーランド	製造工程	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97: 226-233	90673に同じ
270	2009/10/27	90678	バイエル薬品	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臓臓	米国	製造工程	有	無	無		異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97: 226-233	90673に同じ
													異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA CPMP 2009 July 23	90673に同じ
271	2009/10/28	90679	日本臓器製薬	-	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無				
272	2009/10/28	90680	日本臓器製薬	-	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無				
273	2009/10/28	90681	日本臓器製薬	低分子ヘパリン	低分子ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無				

ID	受理日	番号	製薬会社	成分	原料	製造国	有効成分	無	無	無	修正 承認 番号	感染症(EIT)	出典	概要
274	2009/10/28	90682	日本臓器製薬	—	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ芽球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
275	2009/10/28	90683	日本臓器製薬	—	培養ヒトリンパ芽球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	無	無	無			
276	2009/10/28	90684	日本臓器製薬	—	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	WHO 2009 October 9	WHOはパンデミック(H1N1)2009の最新情報を週毎に更新しており、2009年10月4日現在、WHOに報告されたパンデミックインフルエンザ(H1N1)2009の確定症例は375,000例、死亡例は4,500例であった。多くの国では個別症例を数えるのを止めており、症例数は実際に発症した数より顕著に低い。北半球の温暖な地域では、インフルエンザウイルスの伝播およびILIの割合は増加し続けており、アメリカおよびアジアの熱帯地域ではインフルエンザの伝播は続いているが、インフルエンザ活性は可変的であり、また、南部および南アジアの多くの地域では、インフルエンザの伝播はゆっくりと低下している。一方、南半球の温暖な地域では、インフルエンザの伝播は大きく低下している。 GISN(Global Influenza Surveillance Network)は抗ウイルス薬オセルタミビルに耐性を示すH1N1ウイルスパンデミックウイルスの散発的な事例の検出を続けており、今日までに、(10,000以上の臨床サンプルのうち)31の耐性株が世界中で検出された。すべてのウイルスが同じH275Y変異を示し、この変異が抗ウイルス薬オセルタミビルに耐性をもたらし、ザナミビルには影響はない。
277	2009/10/28	90685	日本臓器製薬	—	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	WHO 2009 October 9	90684に同じ
278	2009/10/28	90686	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
279	2009/10/28	90687	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
280	2009/10/28	90688	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュージーランド	添加物	無	無	無			
281	2009/10/28	90689	メルスモン製薬	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	申請者	製品名	成分	製剤名	製造国	有効成分	有	無	無	感染症(PT)	出典	概要
282	2009/10/28	90690	日本メジフィジックス	放射性医薬品基準人血清アルブミン五酢酸テクネチウム(^{99m} Tc)注射液	人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(^{99m} Tc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	共同通信HP 2009 April 28 / WHO 2009 April 28	90479に同じ
												レンサ球菌感染	日本化学療法学会第57回総会 201	90505に同じ
283	2009/10/28	90691	日本ビーシージー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 468: 77-81	ウシ及びマウスの消化管上皮細胞株を樹立し、濾胞随伴上皮に存在するM細胞のin vitro分化誘導系を開発するなど、経口摂取した異常プリオン蛋白の生体への初期侵入機構の解明を目的とした研究の報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 468: 81-82	ウシ及びヒツジの回腸と十二指腸に、逆行性のトレーサーを注入して、回腸遠位部から延髄に伸びる交感・副交感神経経路におけるプリオン移行の解析を行い、また、ウシ回腸遠位部での物質の取り込みや神経網について行った研究の報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産技術会議事務局研究成果 2009; 468: 99-103	国内初発のBSEをマウスへ伝達・継代した結果、英国のBSEを伝達した結果と同様の結果が得られ、ウシでの解析結果と一致して、日本初発のBSEが英国のプリオン株と同じである可能性が示唆されたという報告。また、BSE、羊スクレイピーをマウスへ初代伝達した際の病変形成・発症について病理学的に検討を行った研究の報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochemical and Biophysical Research Communications 2009; 386: 345-350	正常プリオンタンパクのPrP ^{sc} (prion protein)への変換はプリオン病の基本的な要因であるが、その分子メカニズムやPrP ^{sc} 蓄積の影響は不明である。細胞培養におけるPrP ^{sc} の蓄積に関与する分子の変化を調査するため、転写プロファイルについて、PrP ^{sc} が蓄積している初代培養ヒツジマイクログリアとPrP ^{sc} が欠損しているマイクログリアをAffymetrixのウシゲノムアレイを用いて比較した。アレイの結果、PrP ^{sc} が蓄積しているマイクログリアでは、19の遺伝子の発現は上昇し、30の遺伝子の発現が抑制されており、培養マイクログリアにおける慢性的なPrP ^{sc} の蓄積が結果として限られた転写応答になる、とする仮説を支持する結果となった。
284	2009/10/28	90692	CSLベering	-	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	有効成分	有	有	無	新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 49(5); 977-984	90532に同じ

											真正 使用 検査	感染症 (RT)	出典	概要
296	2009/10/29	90704	大日本住友製薬	インターフェロンアルファ (NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞	-	製造工程	無	無	無			
297	2009/10/29	90705	大日本住友製薬	インターフェロンアルファ (NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵	-	製造工程	無	無	無			
298	2009/10/29	90706	大日本住友製薬	インターフェロンアルファ (NAMALWA)	マウスハイブリードマ由来モノクローナル抗体	マウス細胞	日本	製造工程	無	無	無			
299	2009/10/29	90707	ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	90527に同じ
												細菌感染	日本細菌学雑誌 2009; 64: 220	90527に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Science 2009; 10.1126/SCIENCE.11176062	90527に同じ
												リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 2009 April 23-24	90527に同じ
												ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA 2009 May 22	90527に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	CDC/MMRW 2009; 58: 521-524	90527に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	製品名	成分名	原料名	原産国	製造工程	無	無	無	感染症 (PI)	出典	概要
305	2009/10/30	90713	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
306	2009/10/30	90714	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ又はウルグアイ(MCBIの一部米産産含む)	製造工程	無	無	無			
307	2009/10/30	90715	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	数10年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	無	無	無			
308	2009/10/30	90716	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	無	無	無			
309	2009/11/2	90717	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
												B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 0-85	90550に同じ
												B型肝炎	Hepatology 2009; 49; S156-165	B型肝炎の再燃とは、非活動型もしくはB型肝炎が治癒した患者にB型肝炎ウイルス(HBV)の急激な増幅が起きることである。最も説明が成されている例として、B型肝炎の再燃はリンパ腫または白血病の癌化学療法を受けている非活動性もしくはほとんど活動していないB型肝炎表面抗原(HBsAg)キャリアに起きている。通常は化学療法の間血清中HBV DNAが上昇し、化学療法中止後に免疫再構築による疾病増悪およびHBV DNAクリアランスと続く。いくつかの無作為化プラセボ対照試験は、抗ウイルス剤の予防投与によって再燃を防ぐことができることを示した。癌化学療法や移植を行うHBsAg陽性者にルーチンの予防が推奨されるが、HBsAgスクリーニングを行う患者の選定や使用する抗ウイルス剤の種類や期間、およびHBsAg陰性のB型肝炎治癒患者への予防など疑問はある。再燃の分子生物学的メカニズムや異なる患者集団における診断、治療および予防の最適化についての研究が望まれる。
												B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49; 1314-1320	90666に同じ

ID	発症日	患者	報告者	年齢	性別	居住地	職業	旅行歴	病状	検査結果	感染症(PT)	出典	概要
											Q熱	Eurosurveillance 2009; 14(19); 2009 May 14	オランダでは2007および2008年のアウトブレイク後再びQ熱報告が2009年4月から急増し、1月1日-5月11日の間、総計345症例が報告された。男女比は約1.7:1で、年齢中央値は49(38-61)歳であった。ほとんどの患者が2007および2008年の報告と同様、Noord-Brabant地方の同地域の住民であるが、感染領域は拡大傾向にある。オランダにおけるQ熱の主な臨床症状は肺炎であり、2008年に報告された患者は、545例が肺炎、33例が肝炎、115例が他の発熱性疾患を発症した。Noord-Brabant地方には大規模なヤギ農場が集中しており、流産の増加している農場が発生源と疑われる。小型反芻動物へのワクチン接種義務化が始まっており、2010年には効果が出ると思われる。
											アメリカ・トリパノソーマ症	Emerging Infectious Disease 2009; 15:653-655	ブラジルで2006年1~11月に発生したアメリカ・トリパノソーマ症のアウトブレイク(178症例)について、調査の結果、アサイー果実を漬す際に、原虫を媒介するサンガメの排泄物が混入した可能性が考えられた。
											アメリカ・トリパノソーマ症	ProMED-mail 20090406.1328	ベネズエラでグアヴァジュースの摂取によるアメリカ・トリパノソーマ症のアウトブレイクが発生し、同学校に通う児童47名と教師3名が感染。児童3名が死亡。
											アメリカ・トリパノソーマ症	CBER (http://www.fda.gov/cber/gdlns/chagas.htm)	CBERから、輸血用全血、血液成分製剤、ヒト細胞・組織及びヒト細胞・組織由来製剤のTrypanosoma cruziが伝播する危険性を低減するための血清学的検査実施についてのガイダンス案を公表。
											ウイルス感染	PLoS Pathogens 2009; 4: e1000455	90527に同じ
											インフルエンザ	Virus Res. 2009; 140: 85-90	90550に同じ
											新型インフルエンザ(H1N1)	N Engl J Med 2009; 360: 2605-2615	90473に同じ
											新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
											新型インフルエンザ(H1N1)	Eurosurveillance 2009; 14; 19244	90550に同じ
											ウイルス感染	日本感染症学会 第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
											ウイルス感染	ProMED-mail 20090806.2782	90666に同じ

ID	発症日	患者	性別	年齢	居住地	職業	感染経路	検査結果	治療	経過	補正 検査 結果	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	CDC (http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	90550に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 January 5	90550に同じ
												チクングニヤウイルス感	CDC 2009 August 17	90550に同じ
												バベシア症	2009 Feb 23; New York City, Department of Health	2008年9月以降の6ヶ月間、ニューヨーク市において輸血関連バベシア症の報告急増。市衛生局は医療従事者に対し、3ヶ月以内に輸血又は臓器移植の既往歴があり、発熱/溶血性貧血を呈する患者の鑑別診断にバベシア症を考慮するよう勧告した。
												HTLV	47 news. 2009 Jun 27	90550に同じ
												HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	90550に同じ
												細菌感染	日本感染症学会 第83回総会 2009 April 23-24; 224 O-172	2002-2003年に高知県で日本紅斑熱が疑われた患者18名の保存血液を解析した結果、2名からヒトアナプラズマ(<i>Anaplasma phagocytophilum</i> :A.p.)に特異的なp44/msp2遺伝子が検出され、ヒトアナプラズマ症の国内における存在を初めて確認した。1例はヒトアナプラズマ症で、もう1例はA.p.と日本紅斑熱リケツチア(<i>Rickettsia japonicar</i> :R.j)の混合感染症であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	90550に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	90550に同じ
												BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esb_monde.htm)	90550に同じ

ID	発症日	報告日	報告者名	輸血製品	輸血成分	輸血部位	輸血国	有効成分	有	有	無	感染症 (P/D)	出典	概要
												BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm)	90550に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	90550に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ
												感染症	FDA/CBER http://www.fda.gov/cber/blood/fatal08.pdf .	2005～2008年度のCBERに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。2008年度は、受血者72件、供血者10件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、46件が輸血関連もの、8件が輸血関連性否定できないもの、18件が輸血と関連しないもの。微生物感染はバベシア症5件、Staphylococcus aureus、Staphylococcus epidermidisがそれぞれ1件。05～08年度の微生物感染28件中、10件をバベシア症が占めている。
310	2009/11/2	90718	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	無	A型肝炎	Eurosurveillance 2009 April 16; 14(15)	90550に同じ
												B型肝炎	日本肝臓学会第37回東部会 O-85	90550に同じ
												B型肝炎	Hepatology 2009; 49: S156-165	90717に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2009 July; 49: 1314-1320	90666に同じ
												B・C型肝炎	Transfusion 2009; 49: 648-654	90717に同じ
												感染症	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55: 245	90550に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Disease 2009; 15 :704-708	90550に同じ
												E型肝炎	第57回日本輸血・細胞治療学会 2009; 55: 244	90550に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料名	原産国	含有区分	文書	症例	適正 使用 措置	感染症(PJ)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	CDC (http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/surv&controlCaseCount08_detailed.htm)	90550に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion Epub 2009 January 5	90550に同じ
												チクングニヤウイルス感染	CDC 2009 August 17	90550に同じ
												バベシア症	2009 Feb 23; New York City, Department of Health	90717に同じ
												HTLV	47 news. 2009 Jun 27	90550に同じ
												HHV-8感染	Journal of Infectious Disease 2009; 199(11); 1592-1598	90550に同じ
												細菌感染	日本感染症学会 第83回総会 2009 April 23-24; 224 O-172	90717に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2009; 457; 1079	90550に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96; 270	90527に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20090108.0076	90550に同じ
												BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbmonde.htm)	90550に同じ

ID	発出日	輸出先	品名	成分	動物	産地	有効成分	有	無	無	感染症 (FT)	出典	概要	
											BSE	OIE (http://www.oie.int/eng/info/en_esbru.htm)	90550に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2009 May 21	90550に同じ	
											異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Department of Health 2009 June 5	90527に同じ	
											感染症	FDA/CBER http://www.fda.gov/cber/blood/fata108.pdf	90717に同じ	
311	2009/11/6	90719	大洋薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	ProMED-mail 20090417.1458	米国ニューメキシコで2匹の死亡したウサギから野兔病が確認された。1例は4月9日にSanta Fe市街から数マイル南西にあるLa Cienegaで、もう1例は4月8日に同市街のすぐ西で死骸で見つかった。また、5月31日にSanta Fe北端で死亡したウサギが見つかり、ペスト(<i>Yersinia pestis</i>)に陽性であった。これらウサギの死亡と関連したヒトおよびペットの報告はなく、抗生物質による予防は必要ない。ニューメキシコ当局はウサギが細菌感染によっておこる野兔病で死亡していること、またペスト感染を避けるため予防措置に従うよう呼びかけた。
312	2009/11/6	90720	大洋薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	ProMED-mail 20090417.1458	090719に同じ
313	2009/11/6	90721	大洋薬品工業	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Journal of General of Medicine 2009; 90: 900-908	ヨーロッパで流行しているブタインフルエンザAウイルスのM2分節の遺伝子解析の結果、全亜型H1N1、H3N2およびH1N2においてSerine31がasparagineに置換されているため、高い頻度でアマンタジン耐性を示していることが明らかとなった。また、すべての耐性株のM分節は単一の遺伝子系統に属している。1989年に初めてアマンタジン耐性株が分離され、最後にアマンタジン感受性株が分離されたのは1987年であり、アマンタジン感受性ウイルスは変異が出現したすぐ後に耐性菌に置き換わったことを示唆している。コドンに基づいた自然淘汰の解析の結果、コドン30,31および34の陰性選択がアマンタジン耐性を付与していることが示され、ブタおよびヒトのコドン2,11-18および54は置換率のパターンに違いが認められ異なる選択性が示唆された。M分節の置換によってアマンタジン耐性が変わることもおよびA/WSN/33とavian-likeなM分節との組換えの可能性がヒトの再集合体の出現を危惧させる。